

第54号
2026年 4月30日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



「自立援助ホーム子供の家」に 来て思うこと

自立援助ホーム子供の家
施設長 秋本 真一



反抗し、無理難題を言ってきたり、ぶつかることでしか自分を表現できない不器用な子どももの訴えでした。

令和7年4月、この度、長年勤めました児童養護施設神戸真生塾を離れ、当法人が運営する自立援助ホーム子供の家の施設長として異動することとなり、初めての年の瀬を迎えました。神戸真生塾の職員と一緒に、この町の児童福祉の一端を担ってきたこと、そして何より子どもたちと共に過ごした時間は、私の揺るぎない糧となっています。

異動が決まり、神戸真生塾の卒業、卒園のお祝い会で、子どもたちにもそのことを伝えた日のことは今でも覚えています。ある子は、周りを気にせず壁をけり、感情をあらわにし、「もつと困らせたかったのに」と。その言葉に私は心を動かされました。普段は大人に

児童養護施設の子どもの関わりを振り返ると、彼らの思いもよらない言動に、時には驚き、落胆し、否定的な感情を募らせることもありました。職員として迷い、そして、彼らの心の中を見誤ってきたことも否めません。過去、私は、「早く自立させなければ」「正しく育てなければ」と急ぐあまり、彼らが安心して立ち止まり、甘え、試行錯誤するための「溜め」の時間を十分に待つことができなかったと思うのです。子どもからの「もつと困らせたかったのに」と、その言葉、その姿に触れ、私の心は定まりました。彼らが社会に出るまでのステップは、決して平坦ではないのです。焦らなくてもいい。失敗してもいい。そして施設を離れる年齢が近づい

ても、その先の支援のステージをしっかりと準備し、彼らが自分のペースで「大人」になっていくための「拠りどころ」になっていきたい。そんな思いが、自立援助ホームという新たな場に向かう私の原動力となりました。

私たちの歩みは、明治末期、神戸の地で困窮する人々のために立ち上がったクリスチャンである先駆者たちの情熱から始まりました。東北大飢饉、戦災や阪神・淡路大震災という幾多の困難を乗り越え、百三十年以上にわたり、私たちの先輩諸氏は、「時代のニーズ」に応える形で児童福祉のあり方を模索してきています。法人の歴史を振り返ると、そこには常に「家族と離れて暮らさざるを得ない子どもたちの自立」への祈りがありました。現在、国においても、児童自立生活援助事業いわゆる自立援助ホームは大きな転換期を迎えています。退所年齢の撤廃、アフターケア体制の強化が加速しており、制度としての厚みは増しつつあります。しかし、制度がどれほど整っても、最後に彼らを支えるのは、職員と子どもの「人と人との繋がり」です。自立援助ホーム

は、子どもたちが社会の荒波に漕ぎ出す直前の、最も揺れ動く時期を支える場所です。私たちは、これまで以上に地域社会や企業、行政と連携を強固にし、彼らが「独り立ち」ではなく、多くの支援の輪の中で、社会と繋がりながら「社会の中に居場所を見つけたい」とそんなモデルを提示していきたいと考えています。

社会福祉法人神戸真生塾がこの街で紡いできた百三十六年の歴史と、子どもたちの心の声から受け取ってきた様々な期待と課題を胸に、職員一同は、様々な状況下にいるすべての子どもたちが、勇気をもって一歩を踏みだせるように、共に歩んでまいります。



児童養護施設 神戸真生塾

2025年度 琵琶湖キャンプ

7月22～23日に夏の恒例行事である琵琶湖キャンプを実施しました。乳児院、養護の児童と職員合わせて58名で1泊2日を過ごしてきました。



プログラムが盛りだくさんだったので早めに出発。バス車内のビンゴゲームではリモコン操作が上手くいかず、高速テンポになりましたが子どもたちが笑いに変わって楽しんでくれました。到着後は栄養士さんを作って下さった愛情たっぷりのおにぎりでエネルギーチャージをして、早速水泳です。勢いよく入水して奥まで泳いだり、水中フリスビーをしたり、浅瀬でプカプカ

浮かんでいたりと様々な遊び方を見つけたながら思い思いに楽しんでいました。昨年度実施できなかったスイカ割りも実施し、高学年児が年少児に優しく声を掛けたりお手伝いをしている姿が印象的でした。



夜のプログラムは花火とキャンプファイヤーです。キャンプファイヤーで毎年恒例のキーパーさんからの出し物で思いっきり声を出して身体を動かして1日目を終えました。小学生就寝後、急遽中高生が集まって外でライトを照らしながらカードゲームをしました。夜の特別な時間に集まったことで非日常のワクワクが更に広がったようです。2日目は水泳中心のプログラムでした。水泳が大好きな子どもたちは時間が短かったようで帰りを惜しむ声が沢山聞こえて

きました。2日間天候にも恵まれ、大きな怪我や事故もなく無事に全てのプログラムを終えることができました。子どもたちの普段見られない姿や優しさ、温かさを感じることで、嬉しく思います。日常から離れて自然に触れた経験が子どもたちの小さな成長に繋がればと思っています。

児童指導員 平野 菜々子

中学生の外出 お泊り会

神戸真生塾では中高生の子どもたちが集まり話し合う機会をもっています。今年度は、中学生と高校生で分かれて会を開いています。子どもたちから挙げた議題を話し合ったり、外出の計画、行事ごとの出し物などを決めていきます。

中学生は、9月に外出をすることが決まったので6月頃から集まって意見を出し合い、外出の計画を立てました。

行き先はネスタリゾート神戸で、その後施設内で男女に分かれてお泊り会を実施しました。お泊り会は、子どもたちの強い希望でした。



ネスタリゾート神戸は自然の中でアクティビティを楽しむ施設で、各々がしたいと思ったアクティビティをして遊びます。普段では感じることもない自然の中で身体を動かす児童の表情がとても輝いていたのが印象に残っています。

夕方頃に神戸真生塾に帰ると、入浴を済ませて布団を運び、お泊り会が始まります。男子はホールで女子は会議室で就寝をします。最初はプロジェクトで映画を映して鑑賞会をしました。お菓子やジュースも用意して普段とは違う特別な空間の中で児童みんなで楽しく過ごしました。就寝時間になり布団に入りますがまだ、話し足りないようでお喋りをする児童もいました。しかし、午前中のアクティビティの疲れか次第に就寝をしていました。

神戸真生塾は高学年児童が楽しく過ごせるような行事や外出

の計画をしています。次はどこに遊びに行こうかと児童と一緒に考えていきたいと思っています。

児童指導員 竹田 和雅

クリスマス祝会

初めに、イエスキリストのご誕生をお祝いするクリスマスの一と時を、お越しいただいたお客様と共に祝いできましたことを心より感謝しております。

12月25日、クリスマス礼拝・祝会を開催しました。

クリスマス聖誕劇は朗読形式で行い、子どもたちはこの日のために祝会で行われる聖誕劇朗読の練習を重ねてきました。今回は、有志の子どもたちが集まり、セリフの読み合わせ、部分練習、全体練習、歌の練習と何回もの練習を前向きに取り組む姿に、安心して本番を迎えるこ





とが出来ました。また、朗読をする子どもたちだけではなく、場面に合わせたイラストを描いてくれた子ども、それをプロジェクターで映し出す仕事をする中学生たちと、関わった子どもたちで作り上げた聖誕劇は見事に成功しました。

お祝い会では幼児から高校生まで幅広い年齢の子どもたちがこの日のために動いてくれました。養護では、歌を歌いたい！ゲームを開催したい！と、やる気の溢れた子どもたちが舞台上がり、乳児院では子どもたちの可愛らしいクリスマスダンスで盛り上がりました。教員合唱団の皆様もお越しいただき、素敵な歌声に大人だけではなく子どもたちも魅了されておりました。

最後になりましたが、祝会にご参加いただきました神戸教員合唱団の皆様、会場にお越しいただきました方々、本当にあり



がとうございました。来年度も皆様と共に素敵なクリスマスを迎えられますように。

児童指導員 大山 望恵

退所することから

『まちがい探しの間違いの方に生まれてきたよな気でいたけど、まちがい探しの正解の方じゃ、きつと出会えなかったと思う。』

この歌詞をご存知でしょうか？昔田将暉さんが歌っている曲です。作詞作曲は、米津玄師さんです。

私は3歳か4歳の頃に入所しました。そして、小学校に入学する前に家に帰りました。それまでの施設での暮らしも楽しかったです。小学校に入学し、新しい生活が始まりましたが、私の学校での生活は上手いき

ませんでした。45分席に座って授業を聞くのが苦痛でした。2年生に入って、特別支援学級に入りました。

そして、4年生になる年に、もう1度施設に入ることになりました。1回目の入所の時より、家族と会う回数は減ってしまいました。小学校6年生頃からは、私は心が不安定になってきました。当時の私は、なんでイライラしているのか言葉で言えず、人や物に当たっていました。そんな当時の私が大嫌いだ！

中学生になっても学校や施設で暴れていました。2年生になった頃、「薬を飲みたい」と自分から相談しました。薬を飲むことに抵抗があった時期もあり、薬が効くまで時間がかかりました。病院の先生は、たくさん話を聞いてくれて、アドバイ

スもたくさんしてくれました。そのなかで続けていることがありません。それは、イライラしたらノートに気持ちを書くことです。家族に対して思い出してイライラすることがあり、ノートに書くこともありました。どんな書いているうちに書くことが好きになっていきました。

高校では、支援学校に入り、先生はたくさん話をしてくれ、一緒に遊んでもくれました。学校外の知的障害者のバレーボールクラブチームにも入りました。社会人・中高生のバレーボールができる仲間にも出会えました。全国で優勝するくらいの強いチームです。

「私はずっとまちがい探しのまちがいの方に生まれてきたよなと思っていたけど、まちがい探しの正解じゃ、きつと出会えなかったと思う。」そうじゃなかったら、施設でたくさん叱ってくれ、たくさん話をしてくれ、たお兄ちゃん・お姉ちゃん、たくさん話を聞いてくれて遊んでくれた学校の先生、たくさんアドバイスしてくれた病院の先生、バレーボールチームの仲間・監督、辛かった過去も忘れて良かったと思う。この出会いにありがとう！そして、これから、出会う人に感謝の気持ちを忘れず、伝えていきたいと思えます。

(高校3年 T・K)

十八歳を迎え、これまでの歩みを振り返ると、多くの経験が自分の成長につながっていると感じます。なかでも大きな思い出は、バレーボールを始めたこ

とです。日々の練習を重ねるなかで、キャプテンとエースという立場を真生塾のみさんが受け継いでこられたように私も引き継ぎました。簡単な立場ではありませんでしたが、仲間と協力し、状況を考えながら行動する力を身につけることができました。この経験は、物事に主体的に向き合う姿勢を養う機会になりました。

また、6年生の時に行った沖縄への旅行は同い年の子とだけで楽しかったです。飛行機に乗ることも初めての機会だったので忘れられない記憶となりました。乳児院の頃はいちご狩りなど遠足の機会が多く小さい頃からこうして活発に過ごした経験は貴重だと思えます。ひまわりのお部屋で過ごした時間も印象深く心に残っています。部屋から外出する際には、よくスイーツパラダイスに行き、いい思い出作りになりました。こうした経験の積み重ねが、視野を広げ心を豊かにしてくれました。将来は、自身の努力によって安定した収入を得て、自分の思うように暮らしていきます。これまでの経験を生かし、今後もしっかり成長していきたいです。

(高校3年 N・R)

乳児院 真生乳児院

食育 (おいしいをありがとう)



収穫感謝祭をお祝いするために、子どもたちと一緒におやつのスイートポテトを作りました。子どもたちはドキドキしながらも、エプロンと三角巾をばっちりつけて準備万端。大きな生のさつまいもを手渡すと、小さな手でそのデコボコとした形やずっしりとした重さを感じなが

ら嬉しそうに握っていました。柔らかくしたさつまいもを押しつぶすには力が必要ですが、子どもたちは黙々と一生懸命に頑張ってくれました。なかなか触れる機会がない砂糖にも興味津々で、どんな味なのかわくわくしながら味見をします。こうして出来上がったスイートポテ

トは甘くホクホクで、みんなおいしそうに食べていました。

収穫感謝祭とは豊かな収穫を祝い、日々の生活や自然の恵みに感謝をささげるお祭りです。普段は何気なく食べている食材ですが、口に入るまでには種まき芽が生え栽培し、そして食べるためには料理をし、と長い長い時間と苦労がかります。慌ただしい毎日です。おいしい食事の時

間が流動的になってさつと溶ませてしまう、ということが誰しもあるかと思いますが、一つの実りが長い時間を経て私たちの健康や幸福を支えてくれているのだと知ると、これまでより一層食事の時間が豊かなものになる気が致します。「いた

親子の時間に寄り添って

ある晴れた日、ママとウミエで待ち合わせをして、ママと担当保育士と一緒に靴を買いに行きました。ウミエに向かう道中、「ママ待ってるかな、どこにいるかな」とわくわくしながら歩いていたEくん。ウミエに到着してママを見つけるとニコニコしながらママの方に走って行き、手を繋いで靴屋さんに行きました。

きしてみると、少し大きかったり、かかとかパカパカしたりしてぴったりのサイズを探すのに少し時間がかかりました。でも、Eくんもママに「どう

できます」「ごちそうさま」の言葉がどれほど大切なのか、子どもたちもこうした日常の生活の中で少しずつ知り、そして習慣にしていってほしいなと思います。

栄養士 前田 紗希



靴屋さんに入ると色々な靴が並んでいて、Eくんは「これ見て！」と指を差しながら楽しそうに歩き回っていました。足のサイズを測って

かな？」と聞いたり、ママも「とっても似合ってるよ」と笑顔で話しており、とても楽しそうでした。そして、Eくんが「これがいい！」と指を差した靴がありました。履いてみるとサイズもぴったり。Eくんもママもお気に入りの靴を見つけることができました。Eくんは新しい靴の箱を抱えてにっこり。ママもその様子を見て「かっこいい靴が見つかって良かったね」と優しく言葉をかけていて、親子の間に流れる空気がとても温かく感じました。こうした時間を通して、ご家族の皆さんとのつながりを大切にしながら、子どもたちの成長を一緒に見守っていききたいと思います。

保育士 田路 未空



幼保連携型認定こども園

真生きらきら保育園

『おもいやり』

12月に4・5歳児の子どもが参加してクリスマス礼拝を実施しました。子どもたちは、イエスさま誕生の絵本を見たり、讃美歌を歌ったりして、「聖誕劇」の練習をしていました。しかし、今年インフルエンザや胃腸炎が流行し、当日までにお休みする子どもも多く、先生と子どもたちでお休みしているお友だちの役のセリフもカバーしながら練習していました。そして、数人の子どもたちがお休みしている中で当日を迎えました。また、前日まで頑張っていた子どもがお休みになり、それを聞いた同じ役の子どもが、「わたしは、〇〇ちゃんのセリフをいつてあげる。」と言ってくれました。その子は、普段はとてもおとなしい子で、それを聞いた担任は、驚くと同時にとても嬉しい気持ちになりました。困った時に助けてあげようとする気持ちを

ちが育っていることにその場いた先生たちもとても心が温かくなりました。

保育園の保育目標は、「すべての人が向き合い、大切にし合い、豊かになる」です。

成長とともに人との関わりが増えていきますが、子どもたちが、自分が置かれた環境の中で、やさしいお心で困っている人を助けてあげる人になってほしいと思います。そして、自分が助けてもらった時には、「ありがとう」と感謝の言葉が言える人になってほしいと願います。

園長 橋本 美記代

みかんぐみ(2歳児)

足元でサクサクと音を鳴らす落ち葉や、頬をさす木枯らしに、秋の終わりと冬の訪れを感じる今日この頃。

11月は、秋らしい日が多くあったように思います。気持ちのいい気候の中で季節を味わいながら、園庭で給食を食べたり、散歩に出かけたりと秋を存分に楽しんだ様子の子どもたちです。

散歩では、初めてお友だちと一緒に手を繋いで歩くことに挑戦しました。速度を合わせて一緒に歩くことは、意外と難しいことです。しかし、友だちと友だちとを繋ぎ合わせる「紐」を頼りに、一生懸命に公園まで歩いていました。



葉っぱの音鳴らすの楽しかったな～



みんなで外で食べる給食、気持ち良かったね☆

これからますます友だちとの関わりが活発になっていきます。小さなトラブルも増えていくかと思いますが、一人一人と向き合い、日々を楽しみながら過ごしていきたいと思えます。

保育教諭 村上 海衣

めろんぐみ(5歳児)

冷え込みが深まり、冬の訪れを感じる季節になりました。そんななかでも子どもたちは元気に外を駆け回っています。11月は、王子動物園への遠足、5歳児交流会、よい子のつどいなど、様々な行事がありました。

遠足では、事前にグルーブのお友だちと「動物園にはどんな動物がいるかな？」と話し合ったり、絵に描いたりしながら想像を膨らませていました。「ライオンいるかな?」「ゾウはい

た気がする!」と楽しそうに話しながら描く姿が見られました。そんなワクワクした雰囲気もち、動物園に行けたことで、昨年よりもさらに興味をもって動物たちを見ていたように思えます。お弁当の時間には、おにぎりをほおばりながら、見た動物の話を楽しそうに聞かせてくれました。

そして、いよいよ迎えるクリスマス。子どもたちは役に足りきって聖誕劇を楽しんでいます。昨年は、聖歌隊として参加しましたが、今年はいろいろな役に挑戦します。初めは実感がわかない様子も見られましたが、繰り返し台詞を言ったり讃美歌を

歌ったりするなかで、「こんな役をやってみたい」という気持ちが出てきました。役が決まったらからはやる気もぐんと高まり、毎日いろいろな場面の言葉や動きに挑戦しながら頑張っています。

12月は、クリスマス礼拝やクリスマスパーティーなど、子どもたちにとって楽しみな行事が盛りだくさんの月です。これらの行事を通して、子どもたちの力を伸ばしながら、小学校に向けての準備を進めていきたいと思えます。

保育教諭 宇佐美 瞭

みんなでクリスマスツリーの飾りつけをしたよ。



毎日楽しく、聖誕劇に取り組んでいるよ。



ありがとうございました

敬称略・五十音順

(二〇二五年七月一日～二〇二五年十二月三十一日)

寄付金

- 阿部祐介
- 安西真由美
- 石井幼稚園
- 伊藤千景
- 上杉徹
- 大江慎一
- 大垣友行
- 沖野世津子
- 学校法人名古屋学院
- 梶田一聖
- 數田紀久子
- 加渡
- 株式会社大古會
- 久山啓
- クリエイティヴ齋藤
- 神戸教会いずみ幼稚園
- 神戸教会合唱団
- 神戸諏訪山
- ふれあいのまちづくり協議会
- 崎谷義弘
- 清水美香
- 真生きらきら保育園職員一同
- 真生乳児院職員一同
- 児童養護施設
- 神戸真生塾職員有志一同
- 住元義則・淳子
- 瀬沼民子・松本緑
- 高森紀子
- つるかめ管財株式会社
- 時岡三恵
- 富川浩子
- 友藤喜久子
- 友藤公雄
- 鳥井順子
- 中野智之
- 中村悦子
- 難波美智子
- 西村健作
- 日本キリスト教会西宮中央教会
- 日本聖公会関係学校協議会
- 根本志保
- 橋本美紀代
- 濱啓子
- 濱田英二・理恵
- 林りえ
- パスウェイズジャパンフラハ大阪
- Futaba 林秀紀
- 福田加奈
- 藤井秀彦
- 藤坂勇斗
- 細見英信
- 堀川文江
- 宮本美恵子
- 宮永公子
- 民谷清
- 毛利信幸

寄贈

- 有限会社カワタリ電設
- 若林孝典
- 綿谷栄子
- 渡邊智明
- 赤ちゃん本舗
- 赤松祥樹
- アマゾン
- 池田
- 一級財団法人 ruder
- 一般社団法人日本ベビーサイン協会
- 大社貴子
- 門脇明彦
- 株式会社共進舎牧農園
- 株式会社神戸スイーツポート
- 株式会社チュチュアンナ
- 株式会社マークラー神戸
- 神出自然農園
- 協同食品株式会社
- 神戸交通労働組合
- 神戸教会
- 神戸弁天教会
- 神戸ポートタワーホテル
- 郡美恵子
- 小鯛竜也
- 後藤恭子
- 周林玲
- 島田千里
- 神果神戸青果株式会社
- 鈴木真衣子
- 全国シャンメリー協同組合
- 谷田美由紀
- チルドレンストーリーヒデ
- 中安萌子
- ニガキ
- 西山博資
- 日本鏡餅組合
- 日仏商事株式会社
- 浜田佳奈子
- ヒキタ青果
- 兵庫県洋菓子協会
- 平野正敏
- 広瀬俊道
- P&Gジャパン合同会社
- フィリップモリスジャパン合同会社
- ファイブイントラロジステックス株式会社
- 福原商店
- 藤尾はるみ
- 古田真弓
- フレール館
- 神戸ポートワイズメンズクラブ
- 明示ホールディングス株式会社
- メリーアンパーステイ 中川幸子
- ユニクロ
- 米崎奈棋
- YMC A尾上
- 広報渉外部本部 田中株式会社



自立援助ホーム 子供の家

「自立援助ホーム子供の家」での働き

私は令和3年4月から「自立援助ホーム子供の家」で働き始めました。

それまでは「児童養護施設」で約10年働いていました。養護施設では年長児のホームで主に自立に向けての仕事をしていたので、自立援助ホーム子供の家は自分自身の仕事の集大成のつもりで来ました。

私が児童福祉の世界で働こうと思った理由は、それまで約20年間、保険会社の営業をしていたので、その間に経験した数多くの体験を活かすことが出来るかな…と思ったからです。世の中には驚くほど多くの仕事の種類があり、考えられないほど驚く人々がいます。施設という閉鎖的な中で育った子どもたちには想像することも出来ないと思います。これから社会で自立していく子どもたちに何か一つでもアドバイスすることが出来れば…と思いました。

でも、実際にはアドバイスをする以前のハプニングなどの事柄で振り回されているのが現状です。大人を信じる事が出来ない子どもたちとどう向き合っていけばいいのか？が大きな課題です。

社会は「生き馬の目を抜く」という言葉がある様に、厳しく残酷なまでに冷たい世界です。そんな中で成人とはいえ、まだ10代の彼らが1人で生きて行くことは過酷です。それをどう援助するのかと考えた時、ホームにいる時よりも自立した後のフォローが重要だと思います。

子どもたちに「困った時、悩んだ時はここに帰って来るんやで」と言い続けておくことが最も必要で大事なことだと思っています。今はそのための信頼関係作りをしていると思っています。

指導員 酒井 雅子



子どものつぶやき

讃美歌「もろびとこぞりて」をとってもご機嫌で歌っているHくん、最後の歌詞が、「主は来ませり、しゅはーしゅはー、シユワシユワ」になっただけで、「シユワシユワになっちゃったね。」と伝えると、照れ笑いを浮かべていました。

(小2 Hくん)

大好きなリゾットを食べたA君。「これほんまに美味しいなー最高やー」ととっても喜んでいました。たくさん食べて大きくなってね。

(4歳 A君)

保育士が「Aちゃんはどこから生まれてきたの？」と尋ねると「Aちゃんは卵から産まれてきたの！」とお話してくれました。

(3歳 Aちゃん)

大掃除中、落ちてきたほこりを見て「まっくろくろすけみたい」と嬉しそうにしていました。いつかまっくろくろすけ見れるといいね。

(3歳 Aちゃん)

「あふろ(あぐる)の湯に行ったことあるん？」〇〇幼稚園は、あそこで、駅出たらアフロあるやろ。」と、アフロを目印に何度も教えてくれました。「あぐる」と「アフロ」間違っているよ。

(小4 Eちゃん)

「外出してハアアアしたら雪が出るねん」と言ってみせてくれました。

(小1 Sちゃん)

「なんでこんなに物失くすんやろ…？あつ。部屋汚いからや。」と、自分でツツコミを入れていました。

(小1 Sちゃん)

前歯の話をしている時、「裏歯もさ」と言うので何の事かと思ったら奥歯のことでした。

(小4 Rちゃん)



子育てでの
困りごとや
悩みごと…
そんなときは

匿名OK
相談無料

子育てホットライン
078-341-6493

平日休日問わず9:00~18:00
緊急の場合は夜間もつながります

話を聞いて
くれるんだ

スッキリ
できたかも

なんとか
やってみるか

Instagram
ホームページ
Facebook

子ども家庭支援センターでは、子どもや家庭をめぐるさまざまな相談を日々受けています。そうした相談の手前にある、日々のちよっとした気持ちや出来事にも私たちは目を向けていきたいと考えています。子育てをするなかで「少し気分転換したい」「誰かと話したい」「そんな気持ちになることはありませんか?そんな気持ちにこたえる場として、月に2回「子育てホットとひろば」を開催しています。

子育てホットとひろばは、未就学のお子さん
と保護者の方を対象にした、親子で安心して過ごせる場です。子育てをしていると、楽しいことがある一方で、不安や戸惑い、しんどさを感じることもあります。相談するほどのことなのかと迷い、ひとりで抱えてしまうことも少なくありません。そんなときに、気軽に立ち寄っていただける場所でありたいと考えており、



『子育てホットとひろば』

神戸真生塾子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家

予約制ではなく出入りは自由としています。お部屋には保育士や社会福祉士などのスタッフと一緒に、お子さんと一緒に遊んだり、保護者の方のお話を伺ったりしています。何かをすぐに解決するということよりも、今感じていることを話したり、ほっと一息ついたりしながら、また日常へと戻っていきけるような場になることを目指しています。また、どの年齢のお子さんにも楽しんでもらえるよう、さまざまな玩具を用意しています。遊びを通して、子ども同士や

神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 金岡 美衣 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家 相談支援員)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
- 有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家 主任指導員)
- 苦情解決責任者 数田 紀久子 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 橋本 美真一 (乳児院 真生乳児院 院長)
- 秋本 正嗣 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 第三者委員 中村 悦子 (神戸市立自立援助ホーム子供の家 施設長)
- 苦情受付件数 令和7年7月から12月末まで 0件

編集後記

今回も皆様方に広報誌「愛」をお届けできましたこと、日々成長している子どもたちの輝きや感動を沢山の方々に共有できましたことをとても嬉しく思います。

これからも職員一同、子どもたちの心に寄り添い、「愛」のある広報誌を通じてお伝えしていけるように励んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、今回も広報誌を発刊するにあたりご協力いただきました方々、また、日頃よりご支援いただいている全ての皆様に感謝を申し上げます。

近藤 未空

親子の自然な関わりが生まれ、思いがけない素敵な出会いに繋がることもあります。親子同士の交流や、ちよっとした子育ての情報交換の場としてもご利用いただけます。「どんな場所なのだろう」と感じている方にも、ひろばの雰囲気は少しでも伝わればと思います。今回この広報誌を書きました。初めての方も、お一人でも、お友だちと一緒に、どうぞ安心してお越しください。

相談支援員 三木 由佳梨